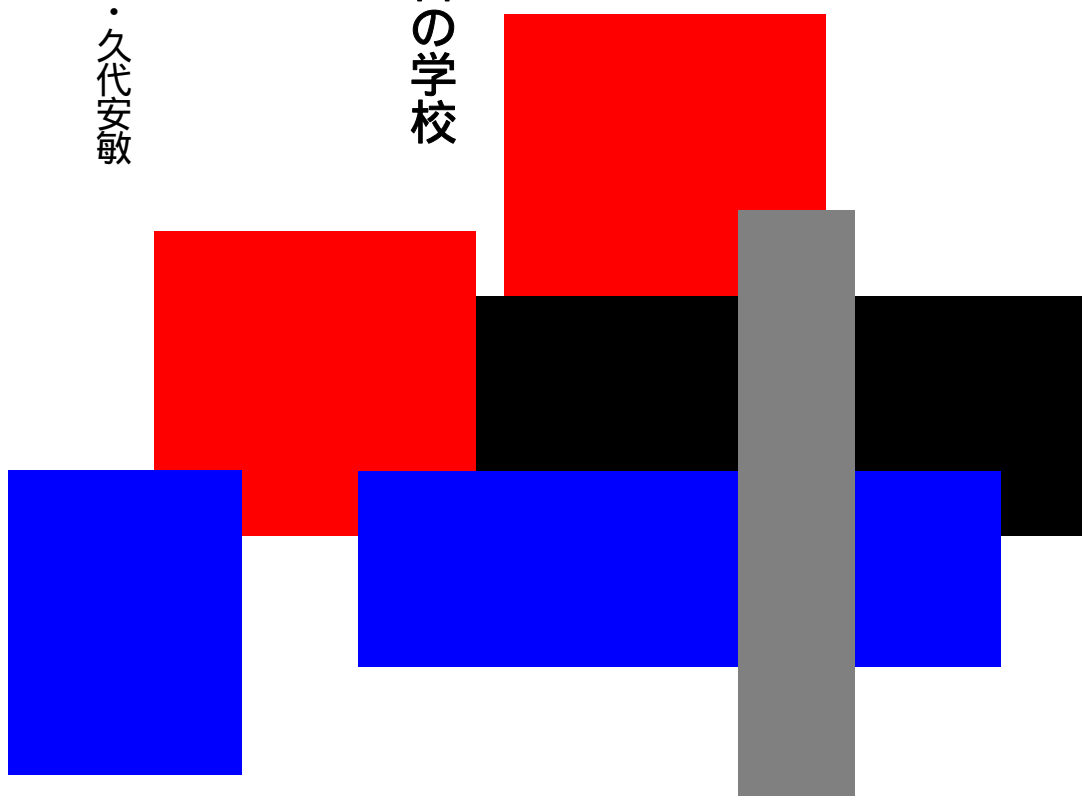


2006年3月5日 日南町総合文化センターさつきホール
日南町民ミュージカル上演台本

そばの花

八月十五日の学校

作・久代安敏



とき 一九四一年（昭和十六年）十二月八日の太平洋戦争
開始から一九四五年（昭和二十年）八月十五日の終戦を経
て、二〇〇五年（平成十七年）八月十五日まで。

第一幕

第一場 二〇〇五年八月十五日の福栄小学校。午前の
授業（総合学習）

第二場

戦時中の福栄国民学校の運動場

第三場 第一場と同じ日の教室

第二幕

第一場 一九四五年（昭和二十年）六月二十三日の東海道
本線「住吉駅」と、その列車内

同六月二十四日の学童集団疎開児童を乗せた
伯備線の列車内と、「上石見駅」

第二場 福栄村のお寺まで、歩いてゆく二里（約八キロ）
の道

第三幕

の道

第三幕

第一場 一九四五年（昭和二十年）七月一日、朝の自照寺の
本堂

第二場

「家庭通信の日」

第四幕

第一場 二〇〇五年（平成十七年）八月十五日、正午の福栄
小学校

第二場

いちめんのそば畑のなかで

〔出演者〕

現在の福栄小学校の先生と児童・疎開体験を話す人

第三場 鐘撞堂

第四場 終戦間際（八月十四日）の自照寺の本堂

第五場 ツヨシの脱走

第六場 終戦

山本校長

青木先生

太郎

博美

一也

あきら

典子

洋子

恵美

きぬこ

前田ツヨシ

河村達也

奥田裕子

くさかゆうき

日下雄樹

船越真由子

こだけかずひで

小竹志英

あしばゆうき

足羽優希

はせがわみお

長谷川美桜

くしろふうこ

久城楓子

いだまりか

伊田万里加

いしばしゆきこ

石橋由季子

しみず あつし

清水 篤

はやし
林エリ
おおつかれいこ
大塚玲子

軍事教練をすることもたち

軍人

いだひろなが
伊田廣長
さいきゆみ
佐伯祐未
やまがたなおや
山形直也
こたけとしあき
小竹俊彰
まつつちはなこ
松浦華子
あしばみほ
足羽未帆
たなか
田中まり恵
たなかちえみ
田中千恵美
ほぎもとこうじ
保木本浩二
わたなへみゆ
渡辺望夢
でくちりさ
出口理沙
おおつかそのこ
大塚素野子
あらきことの
荒木琴乃
わたなへきょうか
渡辺京香
あさのやすき
浅野康紀
おおえなまの
大柄渚
みかげだいにこくみんがっこう
御影第二国民学校の子どもたち
くさかゆうき
日下雄樹
たなかひろあき
田中宏明
ユウジ
トオル

リサ

セイジ

サチコ

ケンジ

アキ

ツヨシ

ユキ

ミナ

マリ

ルミ

ユウコ

北野校長

今井先生

井上靖

伊田村長

上石見郵便局長

上石見郵便局長

福栄村の青年

憲兵

和尚さん

和尚さんの妻

わたなへみずえ
渡邊瑞恵

あらかきりゆう
荒木喜龍

くしろふうこ
久城楓子

わたなへひろし
渡辺裕士

はせがわ
長谷川舞

あしひろたか
足羽紘鳳

いだまりか
伊田万里加

わたなへもか
渡辺崩楓

ふなごしまゆこ
船越真由子

しまやまさあり
島山沙緒里

さいき
佐伯萌

きたのこつちよう
御影第二国民学校校長

みかげだいにこくみんがっこうくねんおんなくみたんにん
御影第二国民学校六年女組担任

いのおえやすし
井上靖(新聞記者・三十八歳)

いだそんちよう
伊田村長(福栄村)

ふたのふた
福栄先生(福栄国民学校六年男組担任)

さえきゆみ
上石見郵便局長

さえきゆみ
上石見郵便局長

かわかみゆき
福栄村の青年

かわかみゆい
河上純一

しみず
清水篤

たぶちあきお
田淵昭雄

あだち
安達愛

くしろやすとし
久代安敏

しみず
清水篤

いだひろなが
伊田廣長

さえきゆみ
佐伯祐未

かわかみゆき
河上由紀美

かわかみゆい
河上純一

しみず
清水篤

かねだまさき
金田正喜

あおととまこ
青戸智子

戦死した夫の妻

おくだ ゆうこ
奥田裕子

福栄国民学校の子どもたち

たけし

やまが たなあや
山形直也

まさる

こだけ としあき
小竹俊彰

たろう

こだけ かずひで
小竹志英

じろう

あしは ゆうき
足羽優希

きょうこ

はせが わみお
長谷川美桜

きぬこ

いしばし ゆきこ
石橋由季子

あいこ

まつつら はなこ
松浦華子

あきこ

あしは みほ
足羽未帆

けいこ

たなか
田中まり恵

よしこ

たなか ちえみ
田中千恵美

ひでこ

ほぎもと こうじ
保木本浩二

みきこ

わたなへ みゆ
渡辺望夢

かずこ

でくちり さ
出口理沙

いくこ

おおつか そのこ
大塚素野子

のりこ

あらかき ことの
荒木琴乃

ともこ

わたなへ きょうか
渡辺京香

ミュージカルナンバー（歌および曲目）

M 1 青いクレヨン

M 2 お話してね

M 3 露菅の歌 作詞 薮内喜一郎 作曲 古関裕而

一九三七年（昭和十二年）

M 4 子どものころ

M 5 ガタゴトギシギシ ダッシュユッシュュー（東海道

本線の車掌）

M 6 ガタゴトギシギシ ダッシュユッシュュー（伯備線）

M 7 ガタゴトギシギシ ダッシュユッシュュー（上石見

駅）

M 8 ガタゴトギシギシ ダッシュユッシュュー（上石見駅

前広場）

M 9 曾根の花歌（御影と福栄の子どもたちによる

二重唱

M 10 世界地図（寝小便）の歌

M 11 お経ソング

M 12 家庭通信の歌

M 13 シャンラン節（ツレレ節） 作詞、村松秀一 作

曲、不詳の替え歌（か）

M 14 夕焼小焼 作詞 中村雨紅 作曲 草川 信

一九二三年（大正十二年）の替え歌

M 15 お月さま

M 16 帰りたい

M 17 戦死広報を受け取った人の歌

M 18 そばの花

M 19 青いクレヨン

第一幕

第一場

二〇〇五年八月十五日、午前の福栄小学校の校庭。
バックネットの向こうで、子どもたちは、野球、テニス、サッカー、相撲などで遊んでいる。

M 1 青いクレヨン

青い空は青いままだ

地球をひとつにしているのに

どうして人は青い空を

黒くぬりつぶしたのでしょいか

青い海は青いままだ

地球をひとつにしているのに

どうして人は青い海を

赤くぬりつぶしたのでしょいか

いのちかがやく

たったひとつの青い星

ちいさな地球

殺し殺され傷つけあって

どうして世界はひとつにならぬのでしょいか

奪い奪われ傷つけあって

やがて世界はひとつにならぬのでしょいか

教えてほしい青い空

答えてほしい青い海

青木先生（職員室から校庭に出て）はい、みなさん、おはようございます。

子どもたち おはようございます。

青木先生 今日八月十五日は、夏休みで、お盆で、行事もいっ

ぱいあって忙しかったり、親戚の方やともだちとゆつくり

したかったかもしれませんが、みんなで総合学習をする計

画でしたのでしたのでさっそく始めたいと思います。

太郎 先生、きょうは昼までですか？

青木先生 勉強は午前中で終わって、その後みんなでお寺に行
って手打ちそばをこちそうになつてから下校です。

子どもたち やつたー。

博美 先生、夏はやっぱりソーメンがいいな。

みんな食べたいものを口々に言う。

青木先生 静かに！お腹が空いたらなんでもおいしい。お腹を

空かせるために、しっかり勉強しましょう。はい、それじ
ゃあ校長先生、よろしく願います。

山本校長 はい、おはようございます。

子どもたち おはようございます。

山本校長 えーみなさん、きょう八月十五日は、何の日か知っ
ていますか？

「はいはい」「とー一也、あきら、典子、洋子
がいつせいに手を挙げる

山本校長 一也くん。

一也 はい、きょうは、晩に盆踊りがある日です。

山本校長 なるほど……盆踊り。あきらくん。

あきら はい、うちの兄ちゃんの成人式。

山本校長 うーん、典子さん。

典子 はい、きょうは、わたしの誕生日です。

山本校長 じゃあ洋子さん。

洋子 はい、きょうは、戦争が終わった日だと思います。

山本校長 はい、そうですね。きょうは盆踊りがあるし、日南町
の成人式もあるし、典子さんの誕生日でもあるし、太平洋
戦争が終わった終戦記念日でもあります。今年は、戦争が
終わってちょうど六十年目になります。校長先生も六十年
前には、まだ生まれていませんでした。そこで今日の総合
学習の時間は、戦争があつた頃のことについてお話してい
ただくために、はるばる神戸からお二人の方に来ていただ
いていますのでみなさんにご紹介します。

前田ツヨシ みなさんこんにちは。神戸市東灘区の御影とい
うところから来ました前田ツヨシといます。そこでまず最
初に私からみなさんに質問したいと思います。六十年前の
きょう、私は、さていったいどこにいたのでしょうか。

林ルミ (前田に)いきなりそんなこと聞いても無理やわ。(青
木先生に)ねえ先生。

青木先生 ああ、ええ、はい。低学年の子どもたちには、少し
難しいかもしれませんが、五、六年生は社会の授業で

林ルミ そう、みんな勉強しとんや。私は林ルミいいいます。前

田さんは神戸やけど私は、大阪のとなりの尼崎あまがさきいうところから来ました。六十年前のきょう、私は、さていったいどこにいたのでしょうか。

洋子 (元氣よく拳手して) はい、前田のおじいさんも、林のおばあさんもここにいました。ここです、ここ、福栄小学校です。六十年前のきょう、八月十五日はここにいました。

林ルミ 凶星すばし！よう知ってたね。

青木先生 六年生です。きょうの総合学習のためにいろいろ宿題も出したので。

博美 先生！わたしは、お父さんに、調べしらべことがあるので教えてほしいと頼たのみましたが、「そげな昔たののことはよう分からんから、学校で勉強べんきょうしてこい」と言いわれられました。

青木先生 恵美さんは？

恵美 うちの、大つきなおばあちゃんは、「盆ぼんがきた盆ぼんがきた」と、いつつもわたしを連つれて、お墓はかに行きます。きのう、宿題の話はなしをしたたら、「大つきなおじいちゃんおじいちゃんは遠い太平洋たいへいようの海の底そこに沈しずんだ。戦争は悲しい」と泣ないていました。

前田ツヨシ そうか、あなたの大きなおじいちゃんは、戦争で死んだんか。

林ルミ おばあちゃん、いくつ？

恵美 大つきいおばあちゃんが八十五で、小つちやいおばあちゃんおばあちゃんが、たしか、六十。

林ルミ じゃあ、このおばあちゃんとおじいちゃんおじいちゃんは、恵美ちゃん恵美ちゃんとこの大きいおばあちゃんおばあちゃんと小さいおばあちゃんおばあちゃんのちようど真ん中まんなかやね。二人とも七十二ていじゅうにじゅうにやから。

前田ツヨシ もうそんなに歳としいったんか。

林ルミ だって国民学校六年生の時、ここに疎開そかいして戦争終わったんが十二の歳で、もう六十年も経たったんやもん。

前田ツヨシ 十二足す六十は七十二じゅうにじゅうにか。

山本校長 お歳としがばれたところで、そろそろ始めましょうか。時間はたっぷりありますので、どうぞゆっくりと話はなししてやってください。私も子どもたちといっしょに勉強べんきょうさせていただけますので。(子どもたちに)みんなも、わからないことがあつたら、どんどん質問しつもんしてください。

子どもたち全員 はい。

洋子 おばあちゃん、国民学校こくみんがっこうつてどげな学校？

恵美 学童疎開がくどうそかいつて、どげなこと？

子どもたち全員 なんで戦争せんそうしただ？

M 2 お話はなししてね (福栄小学校の子どもたち全員)

おじいちゃんおばあちゃん

お話はなししてね

おとうちゃんおかあちゃん

いつしょに聞いて

いまのわたしとおんなじ

子どものころのこと

戦争、空襲、学童疎開

教えてください

ほんごうのことを

おじいちゃんおばあちゃん

お話ししてね

おとうちゃんおかあちゃん

いつしょに聞いて

六十年前の

夏から秋のこと

勉強、食べ物、おやつに遊び

教えてください

ほんごうのことを

第二場

二二で空襲を体験した人なら必ず耳にした半鐘とサ
イレンの音。半世紀以上前を回想するよつな照明。この場面から
太平洋戦争開始の時代になる。あの太平洋戦争を体験した人

なら必ず一度は耳にしたことのある「大本営陸海軍部」が
発表した臨時ニュースの声、流れる。

ラジオの声 「臨時ニュースを申し上げます。臨時ニュースを

申し上げます。大本営陸海軍部、十二月八日午前六時発表。

帝國陸海軍は、本八日未明、西太平洋においてアメリカイ

ギリス軍と戦闘状態に入れり。帝國陸海軍は、……」

前田ツヨシ あの戦争がはじまったんは、たしか御影第二

尋常高等小学校二年生の時やったなあ……。

林ルミ そやそや、ちようどこの年や、尋常高等小学校いう

んが御影第二国民学校と名前も変った。

前田ツヨシ なんやしらんけどなんでもお国のためにいうて

林ルミ 勉強は二の次やった……。

「大本営陸海軍部」が発表した臨時ニュースの声が

終わるとき。

子どもたち バンザイ、バンザイ、バンザイ。

M 3 「露営の歌」を歌いながら、曲にあわせて軍事教練をする子どもたちが匍匐前進で入場。名札がよく目立つ国民学校の服装で竹やりを手にしている。

M 3 露営の歌 作詞 藪内喜一郎 作曲 古関裕而

一九三七年（昭和十二年）

勝つて来るぞと 勇ましく
誓つて故郷を 出たからは
手柄たてずに 死なりようか
進軍ラッパ 聴くたびに
瞼につかぶ 旗の波

真鍮管曲がり発音器（トランペットのこと）を吹く軍人が舞台上に登場し、戦意昂揚を鼓舞する曲、「進軍ラッパ」を吹き鳴らす。

軍人 整列！

子どもたち はい！

軍人 番号！

子どもたち （順番に）いち！、に！、さん！、し！、ご！、ろく！、しち！、（ちいさな声）はち、く！、じゅう！

軍人 八番、声が聞こえん！（バシッと叩かれる）

八番の子 はっ、はい！

軍人 元へ！

子どもたち （全員大きな声でくりかえす）

軍人 よし。小国民諸君に告げる。ただいまの臨時ニユース

のとおり、大東亜戦争が始まった。わが大日本帝国軍は、

ハワイにあるアメリカの軍港、真珠湾の奇襲攻撃に大成功

した。この戦争は、聖戦。かならず勝つ。

子どもたち はい！バンザイ、バンザイ、バンザイ。

軍人 日の丸をひろげて世界を包み込め！

子どもたち 日の丸をひろげて世界を包み込め！

軍人 草の根をかむとも倒せ鬼畜米英！

子どもたち 草の根をかむとも倒せ鬼畜米英！

軍人 撃ちてし止まむ、進め一億火の玉だ！

子どもたち 撃ちてし止まむ、進め一億火の玉だ！

軍人 欲しがりません勝つまでは！

子どもたち 欲しがりません勝つまでは！

軍人 警沢は敵だ！

子どもたち 警沢は素敵だ！

「ス」が入っているように聞こえて、もう一度。

軍人 警沢は敵だ！

子どもたち 警沢はステキだ！

軍人 だれだ！敵の前に素を入れた非国民は！一歩前に出

ろ！

子どもたち はい！（子どもたち全員一歩前へ。つぎの唱和は

子どもたちの指揮）ここががまん、戦地を思え！

軍人 （最敬礼）ここががまん、戦地を思え！（納得して

大きく頷く）よし！よくできた。きょうのところはがまん

する。こうして軍事教練を行っている間にも兵隊さんは

次々と戦地に向かって出征しておられる。今歌った歌は、

出征兵士を駅からお見送りするときに、必ず歌わなくて

はならないだいな歌だ。よく覚えておいてお国のために

いのちを捧げてたたかう兵隊さんをみんなで激励すること

を忘れてはならない。

子どもたち はい！（二番を歌いながら行進する。）

弾丸もタンクも 銃剣も

しばし露営の 草枕

夢に出てきた 父上に

死んで還れと 励まされ

さめて睨むは 敵の空

（エイ！）

軍人 いいか、鬼畜米英は一人残らず撃ち殺す！突撃訓練はじ

め！

子どもたち はい！突撃！

勇壮な音楽を背にして、竹やり訓練、防空演習が

つづく。空襲警報のサイレン鳴る。

一番の子 （頭）に防空頭巾。メガホンを口に当て、走り回り

警戒警報発令！空襲警報発令！空襲、く、う、し、ゆ、

うー。

軍人 みな待避だ、待避せよ！

大空襲の照明。逃げ惑う人たち。泣き叫ぶ声

M 4 子どものころ（空襲を体験した前田・林が歌う）

（二人）六十年前の六月五日

(前田) あのと きわしは 国民学校 六年生

(林) あのと きつちも 国民学校 六年生

(二人) 空襲 警報の サイレンが 鳴って

空から 爆弾 降ってきた

やっと 逃げた 防空壕

(林) バケツリレーのお母さん

(前田) 川に 飛び込む お父さん

(二人) まちは 火の海

空は 赤く 灼けていた

学校も 家も みんな 焼けて

たくさんの ともだちが 死んだ

大人になれない ままに

弟や 妹が 死んだ

第三場 ふたたび 福栄小学校の 校庭

一也 うーん、サイレンの音を聞いたたら、なんだかわしやあ

まじき ようとう になった。

前田ツヨシ 日本中で アメリカ 軍による 空襲を受けた。その数

いうたら 延べ一千万 以上にもなる。二十万人 近い 死傷者、

四割が 焼け野原 となった 東京が 七十二回。横浜 二十九回。

名古屋 五十六回。大阪 三十三回。そして 神戸は……神戸は、

なんと 百二十八回 も 受けた。空襲の 回数で いうたら 神戸が

一番 多かったんや。

一也 それで、空襲のないところに 避難した。

恵美 避難 じゃない。そ、か、い。

一也 そーかい、そーかい 集団 疎開。

恵美 寒い 駄洒落 は やめて。

一也 ほんなら、なんで さむーい 戦争 しただ。

恵美 それが わからん けえ 勉強 したる だが。

太郎 つまらん 言い合 いますんや。

恵美 (前田・林に) ねえ、それで 疎開 したんでしょ、福栄小

学校に。

洋子 福栄小学校 じゃなくて、福栄 尋常、高等 国民学校に。

前田ツヨシ 凶星！

青木先生 二人とも 六年生 ですから。

典子 先生、まだ つづき がある ですか？

博美 早う、そばを 食べたいわ。

前田ツヨシ まだまだ、これから がたい へんや。

暗転

第二幕

第二場

とつかいだいほんせんずみよしえき

東海道本線住吉駅のプラットホームの発車のベル。

はっしや

蒸気機関車の汽笛、天を裂くような音。ここで、客

席の時間と空間をいつきに六十年前の一九四五年

六月二十三日、御影第二国民学校の子どもたちが、

そかいれっしや

疎開列車に乗った日に連れて行く。

客車を舞台にセット、動きはじめる列車。

前田ツヨシ

とせいのち

省線の住吉駅は見送りの人でいっぱいだった。

よう忘れん。「エリ、泣いたらあかん、お母ちゃんのこと

ええよつに頼む」

林ルミ

汽車が動き出したら、みんな、みんな「手紙書いてね」

「お手玉の中に塩豆がはいつとー」

前田ツヨシ

「元気で頑張らんとあかん」

林ルミ

「先生、よろしく」

前田ツヨシ

泣いてはあかんいつても、

前田・林

ほんまは、みんな泣いotta……。

M 5

カタゴトギシギシ タッシュュッシュー (車掌)

カタゴトギシギシ

タッシュュッシュー

カタゴトギシギシ

タッシュュッシュー

いっまどつづくの戦争

どくまどつづくの線路

帰るあてない学童疎開

片道切符の汽車に乗る

車掌

お客様にご案内申し上げます。この列車は昭和二十年六月二十

三日東海道本線京都発岡山行き下り普通列車三三三三号です。

終点岡山には十一時二十分到着の予定です。次は灘、次は灘。

(車掌は、客車に乗り、通路から退場、御影国民学校の子どもたち

が、歌いながら登場する。)

カタゴトギシギシ タッシュュッシュー

カタゴトギシギシ タッシュュッシュー

手紙書きますお母さま

あつをよろしくお兄さま

涙かくして手をふる駅の

プラットホームは雨の中

カタゴトギシギシ タッシュュッシュー

カタゴトギシギシ タッシュュッシュー

長いトンネルの中

防空壕ぼうくわうにいるみたい

いつになったら抜け出るか

走りつづけよう！行く

狭い客車せまいきやくにあふれる乗客。遠足気分えんそくきぶんではしゃぐ子どもも

いる。「カタコトギンギン タッシュュッシュュー」がつづいてる。

車掌「面倒めんどうですが、ロ今ただいまより乗車券じやうしやけんの検札けんさつを行います。

今井先生（切符を車掌に見せて）車掌さん 姫路には（いつ着

くのか）

車掌（切符を見て）御影第二国民学校……ああ、学童集団疎開がくどうしゅうだんそかい

ですね。姫路から姫新線きしんせんに乗り換えて津山。明朝津山から新見にいみ。

新見から伯備線はくひせんで上石見駅。こりゃほんまに遠いわ。

今井先生 で、姫路には。

車掌 ああ（ポケットから時刻表を取り出し、めくり）姫路には、

九時七分の到着予定ちやくしゆじゆんです。が、いつ着くことやら。時刻表どおり

には走らなごじやよ。

今井先生 と、こいますよ。

車掌 本線は毎日のまじごとで空襲くうしゆうを受けています。空襲が

あれば、急停車きゆうていしや。こし動けるか分かりません。

トオル（汽車の窓から身をのり出して、遠くを指さし）あつ、またB

29 やー伏せるー！（みな 伏せる）

今井先生 あれは 驚おどろよ。（みな 安心あんしんする）

リサ びっくりするやん。もう空襲くうしゆうには合点ごてんとっない。

セイジ 疎開そかいいつて楽しいな。遠足えんそくみたいや。

サチコ 汽車きしやに乗るのはじめてやもんな。

（また歌い始める子どもたち）

子どもたち カタコトギンギン タッシュュッシュュー カタコトギン

ギン…

北野校長（歌つて騒ぐ子どもたちに）こら、大きな声で騒さわぐな。

遠足えんそくではない。

車掌 それに、この学童疎開がくどうそかいでしょ。毎日何百人も乗ってきますよ。

さつきみなさんが乗られた住吉の駅からは、昨日きのうが128人、昨日きのうが

120人、一昨日おとといが136人。あの子どもたちも、たしか鳥取県とりけんでした。

今井先生 魚崎国民学校の学童疎開うまきこくみんがっこうがくどうそかいでしょう。

車掌 そつそつ魚崎国民学校。伯備線の「根雨駅ねあめ」で降りると言っ

ていました。

今井先生 この前、疎開の荷物を運んだ時に、住吉の駅でいっしょに

なりました。その荷物も二日前の空襲くうしゆうでほとんど焼けてしまいま

たけど……。

車掌 そつですか。なんでも空襲くうしゆうから逃れるために、みなさんのよ

うな集団疎開が五十万、縁故疎開が五十万、とうとう百万人近い子どもたちが、日本中の田舎へ疎開してゐるっていうんですからねえ……。

北野校長 我々は、本土決戦で必ず勝つ、必ず神風が吹きます。

直接戦地に行かれない我々は、銃後の守りをしっかりと固めなければならぬ。それが教育者たるものつとめです。そのためにいつて子どもたちを疎開させているのです。

車掌 (最敬礼) はい……

北野校長 我々は大本営発表を信じるのみです。

車掌 大本営発表がありましたか？全滅したそうです、沖繩が……

今井先生 それは兎も角、車掌さん。我々をなんとか無事に上右見駅まで運んでください。

車掌 (最敬礼) はい。わたくしのつとめは、お客様を無事目的の駅までお届けすることです。次は、須磨、次は須磨……

M 6 ガタゴトギギギッ タッシユッシユー

ガタゴトギギギッ タッシユッシユー
ガタゴトギギギッ タッシユッシユー
はなればなればいやだから

コムマリお手はこいっしよにけいけい

焼けてしまった荷物の隅で
笑って死んでたお人形

歌声が遠くなるにつれて、列車の走行音近くなる。

第一場 伯備線の列車内。乗客の中に井上靖がふえている。

伯備線車掌 お客様にご案内申し上げます。この列車は昭和二十

年六月二十四日の伯備線岡山発米子行き下り普通列車九一一号です。終点米子には、一八時五十二分到着の予定です。

今井先生 車掌さん、上右見駅には……

車掌 はい、お陰様で本線は空襲もなく、全く時刻表どおりに走っております。

ケンジ あっ、またトンネルや。(一瞬暗くなる)

アキ ほんまにトンネルばかりやなあ。

車掌 はい、お陰様で本線は、トンネルと鉄橋と疎開児童が多いことで有名です。みなさんが乗られた新見駅から上右見駅までトンネルが十一、鉄橋は三十五あります。なんせここは、中国山地のご真ん中ですから。

今井先生 車掌さん、上右見駅には……

車掌 はい、お蔭様で本線は、(時刻表をポケットから取り出し、めくり)本線は、上石見駅に二七時二十四分の到着予定となっております。ります。

今井先生 ありがとうございます。

ツヨシ (今井先生に)先生、おやつ食べたらあかん？

今井先生 あかん。みんな、がまんしとんや。

セイジ 先生、小便出るー。

今井先生 がまんできん？

セイジ がまんできん。

北野校長 ここががまんだ、戦地を思え！

車掌 (泣きそつになるセイジに)汽車の便所はいつばいだから、

デッキから外にすりやあいい。トンネルの中は社会の窓が見えん

からちよつといい。

今井先生 セイジくん、こつちに來なさい。(デッキの方へ連れて行

く)

車掌 次は、上石見、上石見でございませう。(と、去る)

アキ 長いトンネルやなあ。

ユキ 防空壕の中におるみたいや。

ミナ うち、怖いね。

井上靖 怖いか、トンネルの中は？

ミナ 怖い。

井上靖 大丈夫、怖がることはないよ。このトンネルをぬけると、すぐに上石見駅だ。

北野校長 あなたも上石見駅、ですか？

井上靖 ええ、つい先日家族を縁故疎開させたものだから、

福栄村に。

北野校長 ほつ福栄村ですか、福栄村なら私たちと同じです。

井上靖 福栄村は、ほんとうにいいところですよ。夜ごと美しい星の

しずくが、天体から降り注ぎます。まるで、星の植民地、いや、

天体の植民地のような村です。

子ども全員 テンタイノシヨクミンチ？

井上靖 ああ、天体の植民地。大阪や神戸のように空襲や焼夷弾は

決して降って來ない。

子ども全員 やったー。

北野校長 静かに！

井上靖 空襲警報のサイレンの替わりに狐が鳴き、焼夷弾の替わり

に星が降る。

子ども全員 やったー。

北野校長 静かに！、(井上に)私は御影第一国民学校校長の北野

失礼ですが、あなたはいったい…。

井上靖 いやあ、どつとも、まあそのつち分かりますよ。うちの子は

三年生。福栄国民学校でお世話になっていきますから。

今井先生 福栄国民学校なら私たちと同じです。

井上靖 女組です。どうもまだ馴染めないようですが…。

今井先生 すぐに友達になれます、みんないつしよですか。

井上靖 ならいいのですが、疎開児童の父からもつぞよろしく

お願いいたします。大阪は枚方、井上靖です。

今井先生 大阪なら私たちのすぐ近くです。

井上靖 (北野校長に) 私は明日の始発で日本海廻りで帰ります。

北野校長 と、いつしよは…。

井上靖 ええ、子どもたちといっしょに居られるのも今夜一晩だけです。

北野校長 召集、ですか？

井上靖 いえ仕事です。京都で開かれている美術展覧会を取材し

て記事を書く。仕事仕事、大阪毎日新聞社会学部の仕事ですよ。

北野校長 ああ…。

井上靖 まあ校長先生、疎開も長くはないでしょう。亡びるでしよ

う、日本も。

北野校長 (気が立ち大声で) 子どもたちの前で、亡びるとは何だ

亡びるとは…(襟元をつかみ) 君は夏目か、漱石か、三四郎か

坊ちゃんか、髭の広田か、非国民!

今井先生 校長先生…。

ところで急に下り坂となり、乗客も前のめりになる。

汽車はトンネルをぬける。

井上靖 着きますよ。

車掌 大変長くお待ちいたしました。上石見駅に到着です。

井上靖 校長先生、またいつかお会いできるでしょう。(子どもたち

に) じゃあみんな元気で仲良く。(デッキに消える)

子ども全責 はい、御国のためにがんばります。

北野校長 さあ、みんなも、手荷物を忘れないように降りる準備を

しなさい。駅にはたくさんの方が歓迎に来ておられます。御影第

二国民学校の名に恥じない、小国民として立派な行いをしなけ

ればならない。

子ども全責 はい!

北野校長 わたしたちは、福栄国民学校でお世話になる。

子ども全責 はい!

北野校長 宿泊するのは、自照寺と玉泉寺。

子ども全責 はい!

列車、上石見駅のプラットフォームに入る。プラットフォームから駅舎、駅前広場は、歓迎の人の波と日章旗の波。「歓迎疎開される皆さん、今日よりお友達になりませう。福栄国民学校・石見東国民学校」と書かれた幟旗を持つ子。

「国防婦人会」のタスキをかけた婦人数名 手荷物を駅から運ぶための大八車も停まっている。

子どもたち、つぎの歌を歌いながら下車する。

M 7 ガタゴトギギギシ タッシュュッシュュー

ガタゴトギギギシ タッシュュッシュュー

ガタゴトギギギシ タッシュュッシュュー

峠の長いトンネルを

ぬけて谷間の駅につく

初めて降り立つプラットホーム

ふるえる肩とすくむ足

曲の間奏を縫って、つぎのやりとり。 上右見駅の女性駅

腕には「女子挺身隊」の腕章。

上右見駅 上右見 上右見でございます。（子供たちの服装や、

持ち物検査をしながら、北野校長と目が合い、敬礼して）校長先

生……ひさね。

北野校長 はい、校長の北野です。

上右見駅 はい、上右見でございます。

北野校長 お世話になります。ところで福栄国民学校はどちらでし

ょうか。

上右見駅 はい、駱駝のいづを二つ越えて、あの山の向うの側です。

北野校長 ありがとうございます。

上右見駅 次は、生山、生山でございます。

子どもたち、駅前広場へ進む。

M 8 ガタゴトギギギシ タッシュュッシュュー（駅前広場に集ま

っている全員による大合唱）

ガタゴトギギギシ タッシュュッシュュー

ガタゴトギギギシ タッシュュッシュュー

待合室は人の波

駅前広場は日章旗の波

御国のために今日からみんな

ながよくしよう たたがおう

ガタゴトギギギシ タッシュュッシュュー

ガタゴトギギギシ タッシュュッシュュー

女はみんなタスキがけ

男はみんな生命がけ

子どもはみんな声かけ合って

ガケに立つてる日本守る

伊田村長 はい、村長の伊田です。(御影の子どもたちに) えー、本

日より疎開される御影第二国民学校の諸君。我が福栄村は、村を挙げて諸君を心より歓迎いたします。えー、本日より、わたくしが諸君のお父さん。おかさんは、村の人たち全員であります。えー、本日より、諸君が寝食をともにするのは日照寺と玉泉寺であります。お寺までは若干二里。えー、本日の炊き出しは、国防婦人会の方々による赤飯。御国のために、がんばって歩くのです。以上。

御影の子どもたち 赤飯だつて…。

北野校長 こら、静かに！

福田先生 遠いところ、お疲れさまでした。福栄国民学校

六年男組の担任、福田次郎です。(たけしを見て) 級長！

たけし はい、整列！

福栄の子どもたち はい！(号令に合わせ整列)

たけし 一同、礼。(礼をする)

北野校長 そつが、きみが級長か。ありがとう、迎えに来てくれたの

だ。わたしは、御影第二国民学校校長の北野一ちからいるのが、
ろくねんおんなくみたんに
六年女組担任の今井先生だ。

今井先生 よろしく。

北野校長 そつだ、ちようどいい。うちの級長も紹介する。級長。

ケンジ (校長先生にうながされ、一歩前へ出て) はい、御影第二国民

小学校六年男組の級長、松本ケンジです。整列！

御影の子どもたち はい！

ケンジ 一同、礼。(礼をする)

きょうこ きょうから級長が二人か……。級長が二人おりやあケンカになるな。

きぬこ そりや級長は、一人だわえー。

あいこ みんなえつと勉強せんこうに、勤労奉仕で毎日田植えの

手伝いばかりしよつるけえ、疎開先に級長を取られるかもしれん。

福田先生 そこお！何をこそこそしゃべつとる！

きょうこたち はい。(整列する)

伊田村長 さあ、諸君、いつ雨が降り出すやもしれん。大きい荷物は

あの八車に載せりやあい。

子どもたち全員 はい。

(大八車に荷物を載せるなど、出発の準備を手伝つ福栄国民

小学校の子どもたち)

あきこ せえだも、御影の子は、みんな頭が良げな顔をしてくるなあ。

たけし 人は見かけによらぬもの。級長はだれにもやらん。

けい「どっちが級長になるだらあか。」

北野校長 (笑って)「みんなそんなことを心配せんでええ。二人と

もりっはな級長や。さあ、出発だ。」

(福田先生と北野校長を先頭に歩き出す子どもたち。歩き

ながら、打ち解けていく子どもたち)

ル「うちらな、空襲で学校も家も焼けてしまつて、勉強するところ

もない。田舎は空襲がないだけでもええわ。」

ま「(空を見上げて)「うーん、空襲はないでも、銭もない。」

た「(銭はないでも、ぼた餅がある。トオルのカバンを見て)「お

い、そのカバンどえらいいい品物だなあ……。」

ひ「この帽子、カッコイイなあ……。トオルの被っている帽子

をサツと取る。若い血潮の予科練の七つ釦は桜に錨

と、調子よく軍歌を歌つ。(

トオル (ひびく)「オレの帽子返してよ。」

た「(ひびく)「ひびくの手から帽子を取り、トオルの頭に被せ

る)

トオル おおきに。

ま「おおきに?」

ま「(ひびく)「おおきに?」「なんだあ、(ひびく)「わめく福栄の子どもたち」

今井先生 「おおきに」とは、つまりその「、」、ありがと」。今は使

えない敵性語「サンキュー」「の」を神戸では「おおきに」とい

うんや。」

ま「うちらはみんな、だんだん、いつていつだけえなあ。(ぞわ

めく御影の子どもたち)

か「(他人が来りゃー話が分からんけえ、やれんなあ。」

リ「うちらもあんならいつて、なんのことがさっぱり分から

へんでえ。(からかつよつに)「だんだん。」

た「(カツと頭にきて、リサの前に立ちあはだかる)「なに!」

福田先生 (止めに入って)「やめろ!みんな仲良せにやあいけん!

(子どもたちの間に入って)「おおきに」と「だんだん」の言葉

のちがいは、今日からお世話になる自照寺の石段を登り降りする

うちに、だんだん慣れてくるだけえ。」

子どもたち (口々にお互いの顔を見合わせながら)「先生、今何

て言つたん?」

福田先生 また教育したるけえ。」

マ「先生、うちお腹がすいて、もう歩かれへん。」

福田先生 おつ、腹がへつただか。そげえ思おて、ぼた餅う持って

きた。今日で、ようやく田植えがすんでなあ、間食に食つた残りだ

もつまいぞ。」

福栄の子どもたちが、背負つた雑のつからぼた餅を取り

出す。御影の子どもたちは、みんなケンジを見る。が、

手をだそうとしない。

今井先生 まあ、おいしそうやねえ。

北野校長 ちょっと一休みをしてみんなで「馳走になるぞ」。

福田先生 みんな早う食べや。なんでも食べにや、ぼた餅は好かん
だかあ。

級長のケンジの指示を待つ御影の子どもたち。ケンジは
校長が頷くのを確認して。

ケンジ みんな、いただいじや。

御影の子どもたち (福栄の子どもたちに向かって) (おおきこー！)そ

して、ぼた餅に向かって) (いいただきませー！

ユウコ 先生、お寺まであとどのくらい歩くん？

福田先生 もう一里かな。

リサ まだ一里もあるん。

福田先生 元気だせや、この曾根を越えりやすぐだけえ。

たけし わしらなあ、石見の駅から出征される兵隊さんを見送
るために、えーたいこの曾根を越えりだけえ。(ざわめく御影の

子どもたち)

サチコ (今井先生に) 先生、「そによー」「いつてなんのじや？

たけし (笑い) そねーなことを知らんだか。「そね」とは尾根の「

とよ。いま登ってる峠のじやよ。うねれいっねえい、やっぱり、
わしが級長だな。

ケンジ 校長先生、ぼく

「そねー？」「たわー？」やはり意味がわからず、ざわめく
御影の子どもたち。たけしは、その反心を確認して)

北野校長 級長、さあそろそろ出発だ！

たけし・ケンジ (いっしょに) はいー！

全員立ち上がり、歌いながら歩き始める。

M 9 曾根の花歌御影と福栄の子どもたちによる二重唱

夏の雪花 タニウツギ

咲いています 曾根の道

枝もたわわに しなやかに

白い花だね タニウツギ

たけし 「やっと田植えが終わったぞ」

きょうじ「田の草這ったか」 まだまだぞ

夏の雪花 ヤマボウシ

咲いています 曾根の道

月に幾雲 花に風

白い花だね ヤマボウシ

マリ 「おとうは戦争に行ってる」

サチコ 「還ってきたか」 まめただぞ

夏の雪花 イワガランミ

咲いています 曾根の道

道いつくばって 生きてる

白い花だね イワガランミ

ケンジ 「みんな元気でやってるぞ」

きぬこ 「飯は食ったか」 まめただぞ

リサ 「向こうにお寺が見えてるぞ」

あいこ 「鐘は鳴ったか」 まめただぞ

迫り来る夕暮れに包まれて、幕。

第二幕

第一場

朝六時前の自願寺の本堂

本堂は、勉強や運動をする教室兼講堂兼職員室。そして、先生の宿直室兼疎開児童の雑魚寝部屋として使用された。つまり、先生や子どもたちにとってたったひとつの部屋だったのです。中央の須彌壇の奥の一角や、どっしりとした柱や古い障子や座机が部屋を機能的に分けている。本堂の中には、洗濯物が、まるで運動会の万国旗のように綱にいっぱい干してある。上手は厨に通じる。

疎開して一週間、七月一日、外は梅雨の雨。ヘンデル作曲の『水上の音楽』が、電気音機から流れている。本尊さまの前で、眠っている疎開児童、男の子四人。

和尚さんの妻が柱を拭き掃除している。北野校長、本堂から外を眺めている。

北野校長

またきょうも雨ですね。

和尚さんの妻

雨は百姓の一番肥やし。ありがたいことじゃ。米が

できにゃ 百姓は飯が喰えん。

北野校長

ええ。

和尚さんの妻

米ができにゃ、配給が減る。

北野校長 配給が減って、一人一日一合四勺。これ以上ひもじい
思いはさせたくありません。

和尚さんの妻 ほんに米びつがすぐに空になるだけえ。

北野校長 食べすぎでしようかつちの子どもたち。

和尚さんの妻 いや、まあ、どこの子もよう食べる。でもなあ、う

ちの子の方が、百姓の手伝いをするぶん、ちいーとよつげえ食べ
る。

北野校長 奥さん、申し訳ありません。今日から子どもたち田の草
取りの手伝いに行かせます。

和尚さんの妻 子どもは、みんなぞげえして大きゅうになる。

背くらへ (海野 厚 作詞 中山重平 作曲 一九三三

年「大正十二年」)を、柱を拭きながら歌いだす。

柱のきずは おとしの 五月五日の 背くらへ 粽 たべ

たべ 兄さんが……今度なあ、国防婦人会の衆が、みんなやー

粽をこつこつおーするだけ。

北野校長 ありがとついでいます。

和尚さんの妻 ヘンデルだーメンデルだーいつて、西洋の音楽はつか

り聴かんこつちいたあ尋常小学校唱歌も歌わにや。(と、
レコードを止めて、バケツを提げて去る)

北野校長 はい。柱もたれりゃ、すぐ見える 遠いお山も 背

くらへ……(またレコードをかけて去る)

憲兵 (上手より、傘をさし境内に入り) おはようございます。

今井先生 (奥から出て) おはようございます。(憲兵に) 朝早くか

らどないされましたか、何か変わったことでも……。

憲兵 はい、変わったことです。変わったことをしてもらっては困る。

実は……今流れている音楽のことであるが……。

今井先生 ああこれね。ヘンデルの『水上の音楽』。

憲兵 いやしくもこの戦時非常体制下、英国の作曲家の音楽を、こ

ともあるつに朝一番に流すとは全く不届き千万。先生、あなた

らは御影第一国民学校でどげな教育をしておったのですか。「神戸

の疎開児が、敵の音楽を聞いている」と、村じゅうの評判にな

っている。

今井先生 校長先生が、特別に許可されたのです。

憲兵 校長先生が許可されようが、されまいが、違反は違反、非国民

で即刻本官が引っぱります。(今井先生、レコードを止めに走る)

今井先生、横文字は、すべて敵性語、米英語を使うことは断じて

許されない。教育は、朝の音楽から始まる。されば朝飯前には

『愛国行進曲』、昼飯前には『海行かば』、おやすみ前には必

ず「天皇陛下バンザイ」と三回唱え、「生きるも死ぬるもあな

ただい。あしたもきつと生きていられますよつに」と、『君が代』

を大きな声で歌わなければならない。(懐中時計を見て、時間を

気にして) 本官は、これにて失社する。

今井先生 早朝よりたいへんに迷惑をおかけいたしました。

憲兵 (外に出て空を見上げ) 雨だときどきもうも福栄国民学校に

は行かれませんしょう。

今井先生 あつ、はい。晴耕雨読 本日は 本堂で勉強致します。

憲兵 それより、子どもたちを早く起こしてください。(遠くに見

える田んぼを指して)見てください。村の子はみんな朝草刈りの手

伝いに出ている。(急に、教育二関スル勅語の一節を)朕惟フ

二爾臣民父母二孝二兄弟二友二夫婦相和シ、親は無くとも子は

育つ。お父さんは村長さん。お母さんは村の人(先生は、憲兵

に最敬礼)

憲兵と今井先生 (唱和) 威其徳ヲニセンコトヲ庶幾フ。

今井先生 ありがとうございます。

憲兵 失礼する！

憲兵 退場

今井先生 (去り行く憲兵を見送りながら)ありがとうございます。

男の子の寝ている本堂。今井先生が、子どもたちをたたき

起こす。狸寝入りをしていた男の子五人。その理由は？

シーツに染み込んだオシッコの模様は、全部広げて見せ

ることによって世界七大陸(アジア、ヨーロッパ、アフ

リカ、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリア、南極)

の世界地図となる。

M 10 世界地図(寝小便)の歌

起床時間の六時には

きつちり目覚めていたけれど

おしりがぬれて冷たくて

狸寝入りをしていたの

夢に出てきた空襲の

バケツリレーの水あふれ

夢に出てきた空襲の

後に降る雨びしょぬれで

夢に出てきた母さんの

流れる涙しみ込んで

夢に出てきた父さんの

流れる汗がしみ込んで

ふとんがこんなにぬれてるの

いつも夜中に起きるのに

やってしまった寝小便

あああ あああ あああ

初めて描いた世界地図

あああ あああ あああ

「じ」が日本だ強い国

「「じ」が日本だ強い国」で、世界地図の日本をみんなで指さす。歌い終わると、和尚さん、和尚さんの妻、今井先生の拍手。本堂の奥には、騒ぎを聞きつけて集まってきた女の子たちの姿もある。

今井先生 行ったことはありませんが、一度は観てみたい米国

の音楽劇を観ているようでした。とてもすばらしかったので、

「音楽」と「歴史」は全員に「甲」を与へます。

子ども全員 やったー。

今井先生 ただ、寝小便をしたので「修身」は全員「丙」。

子ども全員 へい!? ありがとうございます。

ルミ 先生、うち歌を歌うんは、朝めし前です。

トオル オレ、寝小便こくんは、朝めし前です。

今井先生 朝は、顔を洗って身体をきれいにせんとあかん。小便臭

くては、朝ごはんは頂けません。

子ども全員 はいー!

和尚さん みんな背戸の笥水で行水すりゃあいい。身体を清めた

ら、朝めし前のおつとめだ。

子ども全員 はいー!

子どもたち、我れ先にと上手へ走り去る。今井先生は、布団を干す準備。

和尚さんの妻 ああ臭いくさい。先生、ゆんべ夜中に子どもを便所に

起こさんだつたかね。

今井先生 私の監督不行き届きです。以後気をつけます。

和尚さん さあさあ、朝のおつとめだ。

子どもたち はいー! (舞台上手から入ってくる。)

和尚さん 般若波羅蜜多心経

M 11 お経ソング

般若波羅蜜多心経

寝小便が出ちゃった

南無釈迦牟尼仏陀

寝小便に仏陀

般若波羅蜜多心経

飯が食いたい波羅蜜多

なむしゃかむにぶつぶつぶつた
南無釈迦牟尼仏陀
飯が炊けたぞ仏陀

はんにやほらみたはらたつた
般若波羅蜜多波羅蜜多

のみしらみほーらほー
蚤と虱が波羅波羅

なむしゃかむにぶつぶつぶつた
南無釈迦牟尼仏陀

あたまはらぶつぶつた
頭も腹も仏陀

あたまはらぶつぶつた
羯諦羯諦寢小便

あたまはらぶつぶつた
出ませんように波羅羯諦

あたまはらぶつぶつた
羯諦羯諦波羅陀

あたまはらぶつぶつた
飯が食いたい波羅羯諦

あたまはらぶつぶつた
羯諦羯諦蚤虱

あたまはらぶつぶつた
わかないように波羅羯諦

あたまはらぶつぶつた
羯諦羯諦波羅羯諦

北野校長 なんや朝から騒々しいですねえ。

子どもたち あっ、校長先生、おはようございます。

北野校長 (子どもたちに向かって) おはようございます。(和尚さん

さんに向かって) おはようございます。和尚さん、いったい何事ですか？

和尚さん 何てことはないですよ。「朝のおつとめ」です。

トオル 和尚さん、お経あげたら、なんやもう寢小便せんよつな気がするわ。

和尚さん そうか。ありがたいお経だからちゃんと守ってください。

リサ ウチ、飯食べてへんに、なんや腹がまんぶくになったみたいや。

和尚さん お経は、飯のタネにもネタにもなる。

マリ なんや、蚤も虱もおらんよつになつたわ。頭の痒いもの治つたみたいやわ。

和尚さん 毎朝みんなが虱つぶしに上げると、蚤の息も天に上がる。

今井先生 和尚さん、それやったら、いつになったら神戸に帰れるのか、早く帰れますようにと、拜んでいただけませんか？

和尚さん おお……、それはいちばんむつかしいことだ。まあもう一ヶ月もわたしといっしょに朝のおつとめをしていたら、いい分別が出ます。

今井先生 はあ……。

和尚さん それじゃあ私は、これで……。(上手へ出ようとする)

今井先生 和尚さん、毎朝雨が降って子どもたち、外で運動ができませんのやけど、本堂を運動場に使わせていただけないでしようか？

和尚さん うん、いいですよ。「本堂は、子どもたちのための場所です」。

今井先生 ありがとうございます。

子どもたち はいやいいで前回りする。

ユウジ 和尚さん 仏様にお供えしてある団子いただいてもいいですか？

和尚さん 仏様は、腹のへったかわいい子どもたちを「ほっとけー

(仏)「とは言われない。

子どもたち やった！(子どもたち 仏壇に行こうとする)

北野校長 ちよっと待て！みんな仏様のものでばかり狙わんと、芋を

植えたり豆をまいたり、山にそばをまいたりして、食つものを作ることをしっかり勉強せんとあかん。

子どもたち はい。

和尚さんの妻 鍋を手に上手より

和尚さんの妻 みんな、朝ご飯の用意ができたよ。

子どもたち やったー、メシや！(机の前に正座する)

マリ あー、また路の煮た？……ウチもつ路イヤや。

和尚さんの妻 まあ 贅沢な 贅沢は敵。敵。

今井先生 なんでも食べんとあかん。食へるもんがあるだけでも幸せや。路を食べたら頭がよくなる。雨が止んだらまたみんなで路

取りや。

和尚さんの妻 もうすぐ南瓜や瓜ができるけえ……。

子どもたち はい。

暗転

第一場

本堂で

家庭通信の日

子どもたちは、座机に向かい手紙を認めている。上手に今井先生とその後ろに北野校長が立っている。

M 12

家庭通信の日(子どもたち全員による合唱せつぷ)

山の谷間の小さな村は
いま

緑の風が吹いています

丘の上にお寺があつて

いま

約束の手紙を書いています

ケンジ (手をあげて) はい先生、書けました。

今井先生 ケンジさん、読んでみて。

お父さま

お母さま

お元気ですか

ケンジ ぼくは六月二十四日の夕方、無事つきました。

今日は、やっと待ちに待った家庭通信の日で嬉しくて
たまりません。お寺のまわりは山ばかりでもとても寂し
い。「と」です。「と」つづけるつもりが、今井先生

の注意で中止)

今井先生 待つてー！

ケンジ はいー！

今井先生 「山ばかりでもとてもさびしい」はあかぬ。「山
ばかりでもとても静かならぬと」です」と書けば、お父
さんお母さんも「安心なと」します。

ケンジ はいー！(つづける)とても静かないと「と」で
す。ゆづへはじめてお寺の近所の家でふるをいただき

(また今井先生の注意)

今井先生 待つてー！

ケンジ はう、はいー！

今井先生 こつちに疎開してちよびで一週間。「ゆづへは
じめて」「ふるに入ったと知れば、毎日蚤や風に泣かされ
ているのではなにかと心配なとぬ。よつて」「はじめ
て」「をとり」「ゆづへふるをいただいて」とてもきもち
よかった」と書けば、お父さんお母さんも「安心なと
」します。

ケンジ はいー！

わたしたちは
とても元気です

(ケンジ、手紙を封筒に入れて今井先生に渡す。つづいて
サチコが、手紙を朗読する)

サチコ おかあさん、こちらは爾がよくふります。雨の日
は、お寺で勉強して、晴れた日には勤勞奉仕でとつま
いもや豆を植えたりしています。

いま
白い栗の花がともきれいです。

いま
紫のあじみがともきれいです

(サチコ今井先生へ手紙を渡す。つづいてセイジ)
セイジ どの家にも牛がたくさんいて、家の中であつ
ています。福栄国民学校のともたちは、みんな草か
りや牛にえさをやるのを手伝っています。このまえ

みんなで

田んぼの草とりの手伝いに行きました

(セイジ、同じように今井先生へ)

朝は 1はんとぶき

昼は 1はんとみそじる

晩は おじやとぶきです

おやつは ありません

「オオル お供えしてある団子やぶどうがいただけのの

で、いちばんうれしいのは、お葬式や法事です。」

送って下さい

ユウコ ワカモトとエビオスとクノマールを

送って下さい

アキ そろばんとちよつめんを

送って下さい

ルミ 足につけるお薬と塩を

送って下さい

マリ お人形といり豆を入れたお手玉を

送って下さい

ユウコ はみがき粉とえのぐを

お父さま お母さま

お兄さま お姉さま

この手紙が届いたら

かならず

返事を書ってください

子ども全員、手紙を前の二人と同じように渡す。上手よ

り郵便局員が登場する。

郵便局員 御影第一国民学校の校長先生は……。

今井先生 ちよつと待ってください。(奥に向かって)校長先生！

北野校長 奥の部屋より、慌てて出てくる。

郵便局員 校長先生ですか。

北野校長 はい、わたくし。

郵便局員 郵便です。(と 校長に渡す)

北野校長 ちよつといいところですよ。(今井先生から手紙を受け取り)

郵便さん。この手紙、上石見郵便局に出していただけないでし

ょうか。(郵便局員に手紙の束を渡す)

郵便局員 いいですよ。きょうは「家庭通信の日」ですわ。みんな

よおけ書いたな。確かに。(と 念を押す、去る)

北野校長 (郵便物の宛名を確認し、子どもたちに渡しながら)お

父さんやお母さんが、みんなのことを心配して、手紙や絵はがき

をたくさん書いてくださった。返事は、こんどの「家庭通信の日」

に書くことにする。

子どもたち全員 はい！

遠くから郷愁の音流れて、マリとシヨシに届いた手

紙の朗読が始まる。マリの朗読の時、その朗読もした

いに父の声となる。同じように、シヨシの朗読の時には

シヨシの母の声となる。朗読する人物だけに照明がある。

マリ(絵はがきを手に)マリちゃん、お母さんから連絡があった、

鳥取県の山のお寺に疎開したそうだね。(「ママが父さんの声に

なる（お母さんから離れてさびしいだろうが、先生や寮母さんや和尚さんのお申付けをよく守り、よい子になるやうに、お父さんは遠くから祈っています。ホタルブクロのおし花がとてもかわいらしくてお父さんは大ようにびびります。マリちゃんが野山で遊んでいるやうですが田に浮かびます。鳥取県は、神戸より静かで、山も川も美しいし食べるものもたくさんあるでせう。新しいお友達もたくさんできるし、かえってしあわせだね。お父さんも元気で一生けんめいたたかって一日も早くマリちゃんたちがお母さんのところへ帰れるやうにします。たびたびお父さんに手紙をよそい。

シヨシ（便箋を手で）シヨシちゃん、毎日元気で勉強したり遊んだりしてるとお思います。（いじからお母さんの声になる）今度の集団面会日はとても残念ですがそちらに行けません。エリちゃんが熱を出してやすすでいるし、汽車のきっぷも割り当て制で、なかなか手に入りません。お母さんもがんばってはたらいていますが、シヨシちゃんの学童疎開の月十円のお金がかつて、エリちゃんもいっしょに疎開させたかったけど、がまんしているのです。お母さんとエリちゃん、汽車賃を使ったと思って、きょう小包で、石けんとお薬と写真、それに約束していたハーモニカを送りました。しうちのことには心配せんでええから、先生のおつしやゝることをよく守り、人に親切にしなければい。一日も早くシヨシ

ちゃんに会えるよ、お母さんもがんばります。

シヨシ、泣いている。校長、手紙の途中で、シヨシの立っている場所へ行く。

北野校長 シヨシ、お前泣いとるんか？泣いたら日本男児の負けや。そんなことではりっぱな軍人にはなれん。

シヨシ ……オレ、軍人になりとうない。軍人大嫌いや！人を殺すのも殺されるのもイヤや！戦争はもつイヤや！

子どもたち（絶対口にしてはならないことを言ってしまったシヨシに）シヨシ！

北野校長 なに、（と、烈しいビンタ）お前は国民学校で何を習うた。ええ？、いざといつ時にはお国のために戦えるりっぱな軍人にするために、先生はお前たちを疎開させた。空襲で死んだら何の役にも立たんたろうが。いいか、軍人になれんよつな非国民は、今すぐ神戸へ帰れ！

今井先生 校長先生……。

北野校長 一人でよく帰らんのなら、一度とそいつしちやを口にするな！分かったな。

シヨシ ……。

北野校長（ケンジに）級長！

ケンジ はい。

北野校長 バケツに水を入れて持って来い。

ケンジ はい。(上手の厨やじにとりに行く。北野校長は、ツヨシを鐘かね

撞つき壁かべへあげる。)

北野校長 えー、今度の集団面会めんかいには、お家のみなさんは、夜行やこう

列車れっしやでお見えになって、その日のうちに、また夜行列車でお帰り

になる。ゆっくり話なしとる時間はない。長話ながはなしをしたり、親の前で

泣ないたりしたら絶対に許ゆるさぬ。

子どもたち はいー。

ケンジ、バケツに水をいっぱい入れて両手に提ひげて入いって

くる。

北野校長 (バケツをツヨシに提ひげさせて) ツヨシ、お前は罰ばつだ。

いいか、「ぼくは軍人いくさじんだいきです。お国のためならなんでもしま

す。人を殺したり殺されたりすることはあたりまえ。絶対に泣ないた

りしません」と、みんなの前で大きな声で発表はつぷつできるまでバケツを

下くだろすな。わかったな。

ツヨシ ……校長先生、オレ、戦争が終わるまでずっとバケツ提ひげて

ます。

北野校長 おお、いい根性こんせいしてる。はっはっはっはー。

ケンジ ツヨシ、なにいうね。そんなんできへん。校長先生のいわ

れるように、「あれはまちがいでした」いうて早はやついえー。

トオル そつや、みんな困こまるやないか！

子どもたち ツヨシー！

今井先生 ツヨシくん、みんなでここまでがんばってきたやない。校

長先生もツヨシくんがかわいいからおっしやってるんや。

ツヨシ 先生、ほんまのこといってなんで悪いん？オレほんまにイヤ

やねん。戦争せんそうも空襲くうしゅうも疎開そかいもみんなイヤやねん。

北野校長 大きくなったらお父さんのように戦闘機せんとうきに乗のりたいいう

とつたんは、あれは嘘うそか！

ツヨシ 嘘うそやない。嘘うそやないけど……。

北野校長 嘘うそやないけど、お父さんが戦死せんじしたから嘘うそになつたんか。

戦争で死んだんはお前のお父さんだけやない。みんなお国のために

りつぱに戦いくさつて名誉めいよの戦死せんじを遂とげておられる。それはおめでたい

とんや。

ツヨシ ……。

北野校長 お前のように死ぬことをおそれとつたらなんにもできん。

ツヨシ 校長先生、オレ死ぬことがこわいとちがいます。死んでもな

んの役にも立たんのがこわいんです。

子どもたち ツヨシー！

北野校長 おお、よついつたな。死んでもなんの役にも立たん？役に

立たんのはお前だ！(と、ピンタ)

みんな顔を伏せる。

今井先生 校長先生、もう止めてください。シヨシくんには、わたしが、わたしが後で…。

北野校長 (上手に向かいながら) 先生は、村長さんに会いに行つてくる。帰つて来るまで、級長の指示にしたがつて留守番をよろしくたのむ。

子どもたち はい！

暗転

第二場 鐘撞堂

バケツを持ったツヨシ、鐘撞堂に立たされている。

福栄国民学校の子どもたちが、歌いながら、客席から入場してくる。

M 13 シャンラン節(ツレーロ節) 作詞、村松秀一 作曲、不詳の替え歌「ルースベルトのベルトが切れて」

ルースベルトは戦争当時の米国大統領。チャーチルは英国首相。東条英機は、開戦当時の日本首相。

ツレーロロロ ツレーロ
ツレーロロロ ツレーロ
シャンランラン シャンランラン

ツレーロレ シャンランラン
ルースベルトのベルトが切れて

チャーチル散る散る
花と散る花と散る

ツレーロロロ ツレーロ
ツレーロレ ツレーロ
ツレーロレ シャンランラン

東条英機とうじょうひだひめのつる禿頭はげあたま
ハエが(とまれば)

曲の途中で、鐘撞堂にたたされているシヨシに気づく福栄の級長たけし。

たけし あっ！
よじこ 疎開そかい児こが立たされとるー！

鐘撞堂までかけ寄つていく福栄国民学校の子どもたち。

ひでと おい、何で立たされとるだあ。
たろう また、寝小便ねしょうべんでもしただかあ。

舞台上手から出てくる御影第一国民学校の子どもたち。

たけし あつ、御影みかげが来た。みんなかくれる。

福栄の子どもたち、かくれる。

ケンジ (シヨシに) おまえなんであんなこといったん？

シヨシ ほんまのことについてなんで悪いん。悲しいときに泣いてなんで悪いんや。

ケンジ オレかて空襲くわくで家が焼けたときには「もう戦争はいちや」思った。そやけど先生の前ではあんなことよついわん。

トオル シヨシ、おまえほんまにアホや。
ルミ アホとちやう。シヨシくんよついったわ。ほんまのこといってら。ウチももうイヤやねん。早く戦争終つてほしいねん。

マリ 先生の前ではよついわんけどウチもや。
サチコ シヨシくん、かわいそつや。

ユキ (ケンジに) 級長きゅうぢょう、許ゆるしたつて。
ケンジ みんなごないする...

ユウジ 校長先生にバシたらみんなバケツやぞ。
トオル 「戦争せんそうが終おるまでずーとバケツ提たげとります」。おまえがアホみたいなこといつからや。

ルミ そやけど、早くはや神戸こうべに帰かえりたいいつのはみんな同じやろ。

答こたえに窮きゆうする子どもたちの姿すがたを見ていた和尚おしょうさん。

和尚おしょうさん みんな同じだ。みんな一緒に暮くらしたい。(鐘撞堂かねつづどうに上

がり、シヨシのバケツをおろしてやりながら、わしが許ゆるしたる。先生せんせいに内緒ないしょにしていたる。

子どもたち 和尚おしょうさん。

和尚おしょうが、シヨシの手からバケツを取り、鐘撞堂かねつづどうから降くだろしてやる。

ケンジ 校長先生けいちょうせんせいがおられん間に、みんな歌うたうか。

ユウジ 級長きゅうぢょう、歌うたおう。いつもの歌。
ケンジ よーし。

夕暮ゆふぐれが近ちかくなる。最初さいしょに歌うたいだす御影みかげ第一だいいち国民学校こくみんがっこうの子どもたち。それを聞いていた福栄国民学校ふくえいこくみんがっこうの子どもたちも合唱がっしやうに加かわる。歌うたを和尚おしょうさんも聴きいている。

M 14 夕焼小焼ゆやけこやけ 作詞さくし 中村雨紅なかむらうこう 作曲さく 草川信くさがわのぶ 一九

一三年(大正十二年)の替え歌かえうた

御影の子どもたち
夕焼小焼で 日が暮れて
福栄の子どもたち
日が暮れない

山のお寺の 鐘鳴らない

(顔を見合わせる御影の子どもたち。替え歌であること)

気づき、全員の大合唱となる。(

御影の子どもたち
夕焼小焼で 日が暮れない

山のお寺の 鐘鳴らない

全員で
戦争ながなが 終わらない

鳥もお家へ 帰れない

和尚さん 「われと来て遊べや親のない雀」。親のおらん暮らしは

いつの世もつまらん。みんな帰れんで寂しいだらう。

子どもたち 和尚さん。

和尚さん いまみんなが歌たとおりだ。鐘が鳴らんやあになっても
う三年にもなる。

トオル 和尚さん、なんで鐘のうなったん?

和尚さん 真つ赤な鉢巻巻いて出征したけーだ。ばんざーい、

ばんざーい、いつて……あれからずっとこの寺も鐘の音がせんやう

になつてしまあた。

セイシ お寺の鐘も戦争行つたん?

和尚さん そげだ。……お寺の鐘が、鉄砲や飛行機や船に化けて戦争

に行つた。

けいこ 和尚さん、うちのお母ちゃん、鍋を出しとった。

よじこ うちのお母ちゃん、鍬を出しとった。

のりこ うちのお母ちゃん、釜を出しとった。

かずこ うちのばあちゃん、箆箭の取っ手を出しとった。

マリ 和尚さん、うちのお父ちゃん、シンガポールから佐世保まで

護衛艦に乗るとるいつとったけど、それに化けたん?

和尚さん 護衛艦に化けた。

ともこ うちのお父ちゃん、……。

和尚さん ともこのお父さんは、満州で銃剣に化けた。鍋も釜も

なんでもお国のために化けた。この和尚も学校の先生もみんな化け

てしまあて、よじけいの人を殺したし殺されもした。化けとらんの

は、化けずに変わつとらんの、大きな月が出る東の空を見つめて

あのお月さんと……(シンシを見る)

シンシ 和尚さん、オレ化けとつなかつたんや。化けとつなかつたか

らバケツ提げたんや。

和尚さん ほんとはみんな化けたあなかつた……。なあみんな、盆前に

みんなでこの境内に敵を作つて、そば時いてくれんか。

シンシ こんなとこに時いて、そばがでせんや?

和尚さん できる。戦争はいつ終るか分からんが、そばは種まいて

七十五日経つたら、必ず実がとれる。米は一年中手間がかかる

が、そばは早い。

マツ まかして和尚さん。

とまじ 和尚さん、そばごころでございませう。食へらねるんか？

和尚さん そつだなあ……「名月雪のやつなる蕎麦の花」。一茶の

有名なつたのやつ、彼岸までこぼかわらぬ白の花が咲いて……

刈り取りして、こなしして、田引きして、大晦日には間に合つ。

アキ 先のことやなあ……。早う食へたいな。

のりこ 大晦日には食へれるんだよね、和尚さん。

和尚さん (顔きながら) オオまあ、みんな、もう遅くなったけえ、

家に帰らにやー。みんな心配して待つとななる。いい月夜だがな……

…

子どもたち本堂の前に立ち、歌つ。

M 15 お月さま

お月さま お月さま

みんな あなたを見つめます

戦争に行った父さんは

どこかであなたを見つめますか

いじつになつたら帰つてくれるの

教えてください お月さま

お月さま お月さま

みんな あなたを見つめます

雲に隠れてさ行くの

遠くはなれた母さんに

会わせたいから迎えに行くよ

約束してね お月さま

お月さま お月さま

みんな あなたを見つめます

父さん母さんごつてる

今夜も空を見上げてる

もつすそばの種まきするよ

伝えてください お月さま

暗転

第四場

八月十四日。終戦前夜の夜の本堂。すでに夕食を終えて

いる。ケンジ、ルミ、サチコ、ツヨシの四人は、本堂の前

の境内に出ている。ツヨシは、ハーモニカを吹いている。

ルミ なあ、いつ戦争終わるんやろ。

サチコ そやなあ……。

ケンジ ほんなこと分かつてるやないか。戦争は終わらん。日本が勝つまで終わらん。

ルミ ほんまに勝つんやろか、いつになったら勝つんやろか。

ケンジ 日本が勝つんは……オレにも分からん。先生にきいたらええ。

サチコ 先生も分からんやて。

ケンジ ほんなら、福栄神社の神様にきいたらええ。天皇陛下は神様や。

ルミ うち福栄神社まで行ってくる。

ケンジ やめとき、もう晚い。

たけしが、急いでやってくる。

たけし おーい、持ってきたぞ。

ケンジ 級長、こんなに晩うなって何持ってきたんや。

たけし 約束、約束、盆の約束。

ケンジ ボンの約束？

たけし ああ、盆がきたけえ、黄な粉の団子を持ってきた。「お寺で

よばれた粽がどえらいつまかった。またどげでも食いたい」言っ

とつたがな。みんなで食えや。

サチコ おおきに。先生に報告してくる。(と、団子を持って本堂に駆け足で行く)

たけし なあ、聞いた？明日あ、みんなで石見東国民学校まで行くじょうだがあ。

ケンジ そや、天皇陛下の重大放送があるいつて……。

ルミ 重大放送いつて何のこと？

今井先生 (サチコと本堂から出て) おおきに、たけしくん。たいへんやったね。もう晩うなったから、みんな寝んとあかんわ。明日朝早いんやから。

ルミ 先生、重大放送いつて何のこと？

今井先生 重大放送いつたら……、今は先生にも分かりません。

ルミ やっぱいつち、福栄神社まで行ってくるわ。

今井先生 晩うなって何するんや。明日の正午からラジオ聞いたらちゃんと分かるんやから……。

たけし わしゃ帰るわ。

今井先生 氣い付けて。

みんな さよなら。(たけし去り、ケンジ、サチコ、今井先生も本堂に戻るとして、ルミとケンジのことが気になり本堂の前) 前に立って聞いている

ルミ ハーモニカ好きやなあ。

ツヨシ ……。(そのまま吹いている)

ルミ 何回手紙来たんのお母さんから。なんかいてがみき

ツヨシ ……。(ずっと吹いている)

ルミ うちもな、面会めんかいは、いつもお姉ちゃんねえばかりや。知っと

うちも、うちのお母ちゃんのこと。

ツヨシ ……。(ひたすら吹いている)

ルミ ツヨシくん、なんぼお母さんが会いに来てくれんいうてもお

母さんが生きてるだけでもしあわせや。

ツヨシ (吹くのをやめて) おれ、神戸に帰りたいと思ってる。

ルミ ええ？

ツヨシ 月十円のお金があったくないや。空襲くわうにおおてもええから

お母ちゃんとお父さんといっしょに神戸にいたいんや。(ルミに、脱走だつそう

お母さんとお父さん)

ルミ えっ？そりゃあかんわ。

ツヨシ あかんか？だれにもいったらあかんや。

今井先生 (ふたりに近づいて) もう、おやすみの時間ですよ。

ルミ・ツヨシ あっ、はい。

今井先生、ルミ、ツヨシは、本堂へ向かう。

第五場 ツヨシの脱走

八月十四日の深夜、子どもたちは、本堂で寝ている。ツヨシ

ツヨシ、そり起きてリュックを背負い部屋を出る。布団ふとんは

もぬけの殻から。

第一発見者だいいちはきしやは、となりに寝ていたケンジ。

ケンジ 先生！ツヨシがいません！

子どもたち、いっせいに起きる。隣の部屋から、女組の子

どもたちも登場する。

ルミ まさか、ツヨシくん……。

全責 ツヨシ！

校長先生 先生は、村長さんをお願いしてツヨシを捜さがして来る。留

守番をたのむ。

全責 はい。

M 16 帰りたい

この場面は、脱走事件を、ツヨシとその他の子どもたちと、先生により、せりふ、歌、踊りで表現する。

(子どもたちの合唱)

あの子の向かい側むかひがわ

東の窓の側ひがし

はるか遠くをうらなう

北野校長 せん そ、うは

全責 どうなったんですか!?

北野校長 終る……。

全責 ほんとうに終るんですか!?

北野校長 (泣き伏す)……ほんとうに終る……

第六場 終戦

セミの鳴き声が、ひとしおかん高く響き、「玉音放送」
流れている。

戦争で、夫を亡くした妻、子どもを亡くした母、兄を亡く
した妹、弟を亡くした姉など女性ばかりによる歌。本堂は、
さながら葬送の舞台。白いさらしに包まれた遺骨箱を首
から提げて歌つ。

M 17 戦死広報を受け取った人の歌

暗転

きつとあなたは

生きて帰って来るよ

信じて待ちつづけました

けれども

戦死の広報が届けられて

いまこうして

あなたではないあなたを抱いています

けれども

あなたが還る日まで

わたしは待ちつづけます

ほんとうのあなたが還る日まで

わたしは泣かないのです

ほんとうのあなたが還る日まで

わたしの戦争は終わらないのです

第四幕 第一場 二〇〇五年八月十五日の正午。ふたたび現在の福栄

小学校の校庭。夏の日差しが照りつける。正午の時報鳴り、
サイレンひびき。前田シヨシ、林ルミ、山本校長、子どもた
ち、黙祷している。

けれども

できないうつと愛情はあった

生きて還れるうつと

戦争が終わったから

M 18 そばの花

山本校長 黙禱を終わります。(前田・林にきょうはほんとうにめ

りがついでにしました)

全頁で ありがとうございます

前田ツヨシ いえいえ、どういたしまして。みんな少しは勉強になっ

たか?

子どもたち はい。

山本校長 はい、それではこれできょうの総合学習は終わりにしたい

と思います。

洋子 先生、ひとつだけ聞いてみたいことがあります。

山本校長 はい、どうぞ。

洋子 お寺に播いたそばは、食べたんですか?

前田ツヨシ いや、うーん、戦争終わってわしらが神戸に帰ったんが、

たしか十月二十二日やったから...

林ルミ そう、雪のよくな田にかわいい花だけ見て、とついでにそばは

食べずじまいやった。

前田ツヨシ 先生、今でもみんな、そば作っとん?

山本校長 ええ、学校の畑にもこの間播きました。ほら、あそこです。

林ルミ 花の見えるはやっぱり、秋やね。

山本校長 ええ、秋の彼岸ころが...

前田ツヨシ おんな、同じや、六十年前と同じや...

夏から秋へ だんだん畑を

いちめんに包む そばの花

白から薄紅へ 七十五日の

生命を燃やし 実る花

しるべ落つ時の 夕暮れ時は

きらめく星に ひかる花

そばそば そばの花

いつの時代も少年は

上り下りの峠の道を

一目散に駆けつけゆく

そして少女と

丘にたなずみ 空見上げ

父母が見た星に問う

だれが播いたか そばの花

今年も咲いた 白い花

夏から秋へ 刈り山畑の

なつ あき か やまはたけ

痩せ地が似合う そばの花
 秋から冬へ めぐる季節の
 行く年思い 実る花
 忘れられない 過ぎ去りし日々
 のわけ かせ
 野分の風に ゆれる花
 そばそば そばの花
 いつの時代も少年は
 風に向かつて両手をひろげ
 明日を夢みて歩きます
 そして少女と
 ふるさと探しの旅に出で
 父母が見た月に聞つ
 だれが播いたか そばの花
 今年も咲いた 白い花

いちめんのそばの花
白と青の溶 暗。

カーテンコール

M 19 青いクレヨン

主要参考文献・資料

「小学校六年社会科教科書」東京書籍
 「学童疎開の子どもたち」全三巻 汐文社
 古川清行監修・著「太平洋戦争をしらべる」小峰書店
 大江健三郎「自分の木の下で」朝日新聞社
 「週刊朝日百科 日本の歴史」(「敗戦と原爆投下」)
 家永三郎「太平洋戦争」岩波書店
 東京都・女子学院中学校(国語科)「私たちの聞き書き」
 「二十一世紀へのバトン」
 浜館菊雄「学童集団疎開」太平出版社
 笠木 透「昨日生まれたフタの子が・戦時中の子どものうた」音楽
 センター/あけび書房CDボックス 日本音楽著作権協会(出許第95
 60003 5001号)
 NHK「映像でつづる昭和史・第二部」NHKサービスセンター
 日本作文の会・編「子どもの作文で綴る戦後50年」大月書店
 井上靖「井上靖全集」新潮社
 黒田佳子「父・井上靖の二期一会」潮出版社

井上ひさし「イーハトーボの劇列車」新潮文庫
お経のすすめ研究会・編「はじめての『般若心経』四季社
御影第一校同窓会（八稜会）「御影第一校思い出集」
鳥取県の戦災を記録する会「鳥取県の戦災記録」
福栄小学校同窓会誌「学舎百年」
石見東小学校同窓会誌「桜が丘」
日野上小学校同窓会誌「銀杏」
根雨小学校同窓会誌

作者の許可なく無断で転

載・複製などしないでください。

二〇〇五年十一月